

子どもの食物アレルギー

4月から新学期が始まりました。保育園や幼稚園に通い始めたお子さんには、元気で楽しい集団生活を送っていただきたいと思います。

子どもの中には、食物アレルギーがあるため、給食で食べ物の制限をしなければならない子もいます。初めて卵を食べて、体に湿疹ができたことでアレルギーと診断されたり、湿疹があるからと受診し、検査を受けてアレルギーと言われたりする子もいます。

食物アレルギーの診断は、原則として、食べて症状が出るかどうかという食物負荷試験で判定します。血液検査や皮膚の検査が陽性なら食べて症状が出やすいと言われますが、問題なく食べられる場合もあります。

また、年齢が上がるにつれて食べられるようになる傾向があります。検査だけで判断するのではなく、何が食べられるかを医療機関で相談してください。

近年、食物アレルギーに対する考え方が変わってきています。一つは、アレルギーがあっても、完全に食事制限するというのではなく、少しずつ食べさせる方が早く普通に食べられるようになるという考え方です。ただし、症状の強い子は安易に食べさせることはできません。もう一つは、食べることよりも、皮膚からの刺激の方がアレルギーを悪化させるという考え方です。

食べて問題のない子が必要のない制限を受けることのないように、また、食べて問題のある子が誤って食べることのないように、不安な症状があれば医療機関で相談することをお勧めします。

平成27年6月

西垣 正憲